

「前回（第22回）京都文化芸術都市創生審議会」で頂戴した  
御意見に関する取組状況について

**御意見1 コロナ禍における相談、助成金、補助金の支援等のきめ細かなフォローが重要**

- ・京都市文化芸術総合相談窓口（通称：KACCO）において様々な相談に対応  
（相談件数）

令和3年度：1,613件（令和3年4月～令和4年3月末）

令和4年度：382件（令和4年4月～令和4年9月末時点）

- ・文化芸術関係者をはじめ業種を問わず、幅広く活用いただける補助制度「京都市中小企業等総合支援補助金」を創設。

**御意見2 寄付を財源とした助成制度「Arts Aid KYOTO」の採択者同士がつながる場が必要**

- ・Arts Aid KYOTO（通常支援型）において、採択者等による報告会・交流会の開催（令和5年2～3月頃）を予定。

**御意見3 バーチャル、オンライン、デジタルの活用も重要**

- ・若手芸術家の活動環境の向上とアート市場の活性化を図るため、アート作品のオンライン販売及び宿泊施設等での作品の展示・委託販売の仕組みによるオンライン・リアル双方での取組を実施。

- ・令和4年3月にバーチャル空間上に「京都館 PLUS X」を開設。アバターでの交流や京都市のイベントと連動して、仮想空間ならではの展示や体験を提供。

**御意見4 海外の企業・個人から寄付の受け入れ体制の整備が必要**

- ・令和3年8月に外国語寄付受付ホームページ（英語）を開設、入力フォームも外国語に対応。
- ・国内外からの支援や投資の開拓・獲得に向け、外資系金融機関やフィンテック企業と協議・連携文化資源を活用した「高額寄付者向け特別体験メニュー」を、事業者と連携して造成・試行実施。

**御意見5 行政と文化の現場のことが分かっている行政と文化の繋ぎ手が大切**

- ・京都芸術センター等で現場をよく知るアートコーディネーターを京都市文化芸術企画課の会計年度職員として登用。さらに、外部人材としてオークションハウスやギャラリー等で活動してきた方をアート市場活性化アドバイザーとして登用し、これらの方々の助言を活かして文化行政を推進中。

**御意見6 アーティストと一般の方との交流の場や福祉、教育との連動が大切**

- ・「ようこそアーティスト」「ようこそ和の空間」や「小中学校での伝統文化体験事業（茶道・華道）」「小中学校での京の匠ふれあい事業」等、子どもたちがアーティスト、文化芸術に触れる機会を創出。
- ・「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」として福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談等に対応。

## 御意見 7 文化芸術と産業、観光との融合の推進が重要

- ・行財政改革計画「都市の成長戦略」において「文化と経済の好循環を創出する都市」を目指すことを掲げ、文化と経済の融合による新たな価値創造の具体化を図る取組を推進。